鳥（と）を撮（と）りに行きました。　　２０１５．２

１月１８日の日曜日、近くの公民館三館の共同行事として、「鈴川の探鳥会」が実施され、参加してきました。鳥を撮影するのは初めて、レンズは２００㎜の中望遠レンズです。

集合地点の「東橋」のたもとです。

抜けるような青空、冷たい風ですが多くの参加者が集まりました。

指導には大磯を拠点として、「あおばと」の観測で知れた「こまたん」の皆さんです。

冬の鈴川の流れです。堤防で囲われた流れの中に、中洲が作られ、枯れた雑草の茂みがおおっています。

出発して間もなくです。望遠鏡に納まった野鳥は報告されていません。「こまたん」の指導者さん達は倍率の高い、鳥を観る専門の望遠鏡を携えています。

一同、サイクリングロードを鈴川の上流に鳥をもとめ移動します。

カメラに納めた第一号です。撮影したまま、トリミングなしの１枚です。

だめでした。焦点が定まっていません。

外敵の心配もなく集まって羽を休めています。弱い流れに乗りながら、のんびりと時を過ごしている集団です。

長閑さが伝わってきます。

番(つがい)でしょうか、淵の茂みの陰に沿うように、上流に上って行きます。

野鳥が生息するには「茂みが必要」と「こまたん」の指導者から教わりました。

流れの中の中洲です。小型の洲ですが雑草が生え、春になると被いかぶさるように茂ることでしょう。

冬の陽が温かくなりました。くっきりとした大山が迎えてくれます。

防災上、流れを良くするために、川は直線的に河床を浚うような改修を実施します。

直線的な流れと対応する土手。写真のように改修が完成しても、河川敷の中の流れは曲がりくねります。中洲が作られ、川岸を含め、土のある所には草が生え、林となり、森になる。自然の営みです。ここが野生生物の生息地になる。

「こまたん」の指導者の受け売りですが。・・・

自然環境の保全、知らされます。

最終講義：事前に配付された野鳥名の一覧に従い、今日、観察された鳥の描かれた絵を交え、確認し合います。約２時間ほどで、何と３５種を数えました。

最後に『金目川・鈴川は野鳥の宝庫』であると教わりました。

■　「野鳥観察」の後、日を改めて、鈴川にカメラを持ち出かけました。

新幹線ガード下です。橋脚の半分は雑草が茂っています。鈴川の流れは河川敷の半分の幅になっています。

河川敷内の中洲です。

ほぼ並行した堤防に囲まれた鈴川の流れ、曲がりくねっています。(蛇行)

遠くに新幹線のガードが見えます。

鈴川の改修は「豊かで潤いのある河川環境をもとめる社会的要請に対応するため堤防緑化、親水護岸、魚巣ブロックなど工夫をこらし、親水性を加味した改修手法をとっています。」（神奈川県ＨＰ）

堤防に階段を付け、水辺に降りることができます。木々が茂り、自然公園の様相を観ることができます。

■　野鳥もカメラに納めました。

餌を待つ「ダイサギ」
しばらく様子を見て、餌をくちばしでとらえた所を、と待ちましたが、なかなかその動きにはなりませんでした。

「アオサギ」餌を捕える数少ないチャンスを、実に忍耐強く、長時間待ち続けています。

私は、一足先にギブアップです。

「カワセミ」出現。散歩中の人が教えてくれました。慌ててシャッターを切りましたが、これでは写真にならず。

動く被写体、野鳥やペットは難しいです。後になってから「連写」手法を思いつきました。

（カットの声が聞こえますが、あえて恥をさらします）

『野鳥の宝庫』からの便りでした。